



# まがたま

一人一人が輝く学校・地域と共に歩む学校

令和7年 6月30日

豊玉中学校だより No. 25

【E-mail】 [matsushita.yoko2@nerima-ky.ed.jp](mailto:matsushita.yoko2@nerima-ky.ed.jp)

【URL】 <https://www.nerima-ky.ed.jp/toyotama-j/>

6月の運動会は2度の延期を経ての実施となりましたが、平日開催にも関わらず多数の保護者の皆様にご来校いただき、心より感謝申し上げます。当日は、生徒一人ひとりが最後まで集中を切らすことなく、仲間と力を合わせて、堂々とした演技・競技を披露してくれました。その姿は非常に頼もしく、集団としての成長を感じさせるものでした。定期考査も無事に終え、夏休みまで残すところ3週間となりました。現在は1学期のまとめや次への目標、計画づくりに取り組んでおり、こうした積み重ねがそれぞれにとって実りある夏につながっていくことを願っています。梅雨入りとは名ばかりの厳しい暑さが続いております。熱中症には十分にご留意のうえ、健康にお過ごしいただきますようお願い申し上げます。

## 令和7年6月16日 全校朝礼より

さて、今日は「当たり前のこと、常識」について話をします。

皆さんは「凡事徹底」という言葉を聞いたことがありますか？凡事徹底とは「当たり前のことを徹底的にやりぬくことが後に大きな成果をもたらす」ということを表す四字熟語で、野球のイチロー選手などが座右の銘としている言葉です。凡事とは当たり前のことという意味になりますが、当たり前を言い換えると「常識」という言葉になります。時間を守るのは当たり前、常識だよ、とか言うことがあります。

常識は、それぞれが所属する集団の中で形成されます。例えば、日本では靴を脱いで室内に入りますが、欧米では靴を脱ぎません。靴を履いたままで畳の部屋まで上がってしまったなどという外国人の失敗談を耳にします。また日本では、訪問先で室内に入る前にコートを脱ぐのが「常識」とされています。これは、外からの汚れや花粉を室内に持ち込まないという清潔を重んじる文化に根ざしていると言われています。一方、欧米では、コートを脱ぐ行為は「ここに長く滞在する」という意思表示であり、親密さを表す行動です。日本では建物に入る前に脱ぐのが、欧米では相手に言われてから脱ぐのが常識なのです。同じ行動であっても背景となる文化や価値観が異なれば、常識そのものも変わります。

ここで大切なのは、「常識」とは普遍的な真理、つまりいつでもどこでも変わらない事柄ではないということです。英語では“common sense”と言い、直訳すると「共通の認識」、もう少し説明すると、ある集団や文化が共有する「都合の良い共通の認識」であるということです。共通の認識ですから戦争の際に敵国に対して武器を使って暴力をふるうのは常識と捉えられてしまう事も考えられます。また昔の日本では女性は家庭を守るもの、男性は外で金を稼ぐもの、それが常識として捉えられていました。これらはほんの一例にすぎませんがこの「共通の認識」は時に私たちの視野を狭め、多様な価値観を排除してしまう危険性もあるのです。

では、私たちはどのようにして「常識」にとらわれることなく、より豊かな生き方を選択できるのでしょうか。それが、「良識」を基準とする生き方です。「良識」とは、状況に応じて何が正しいかを自ら考える力、そして他者の立場や気持ちを想像し、配慮することから生まれる意識です。「良識」は固定された概念ではありません。それは、個人の経験や学びによって深まり、進化していくものです。例えば、ある生徒が教室で騒いでしまい、「皆が静かに勉強しているときに大きな声で話さない」という常識を破ってしまったとします。その行動に対し、「常識を破った」と一方的に非難するだけでなく、その生徒が何を感じ、どんな理由でそうしたのかを想像することが重要です。「良識」とは、行動の背後にある背景を理解し、対応する力でもあるのです。

そして、私たちは「良識」を磨くために、まず「自分の常識」を疑う姿勢をもつことが大切です。偏見や固定観念に気付き、それを乗り越えることで、新しい価値観を見いだすことができます。そのためには批判的思考や想像力、そして対話が欠かせません。また、「良識」は「多様性」を受け入れる鍵でもあります。異なる文化や背景をもつ人々と接する中で、私たちは自分と異なる「常識」に触れることになります。この時に必要なのは、違いを否定するのではなく、「なぜその常識があるのか」を理解しようとする努力です。それによって私たちは、新しい視点や価値観を自分の中に取り入れ、自らの世界を広げることができるのです。

そして、最後に一つ覚えていてほしいことがあります。それは、「常識」にとらわれず「良識」に基づいて行動することで、私たちは単に自分の人生を豊かにするだけでなく、社会そのものをより良い方向へ導く力をもつということです。過去には、差別や偏見が「常識」として受け入れられていた時代もありました。しかし、それを乗り越え、新しい常識を作り上げたのは、まさに「良識」をもった人々の行動の結果なのです。

皆さんも、常識の先に広がる多様な世界を探索してください。その探索の中で磨かれた「良識」こそが、自分自身を強くし、周囲の人々を豊かにする力となるのです。今日は「当たり前のこと、常識」について、それから「良識を磨こう」という話をしました。以上です。

## ☆☆【完全燃笑】の一日～～運動会風景～～☆☆

繰り返された雨天順延を乗り越え、「生徒主体の豊中運動会」を6月4日（水）に無事実施することができました。実行委員が運営の中心となり、各学級では生徒が一人一役を考えて実行しました。練習の時点から「練習の時に本番のように取り組まなければ、本番の成功はない」という思いで取り組んできたからこそ、迎えた当日は「全ての保護者、地域の皆様に応援にいらしていただきたい」と思う一日となりました。伝統を引き継ぎ心を繋ぎながら、生徒は新たな取組に挑戦し、立派に成功を収めました。



3年生の勇姿を2年生・1年生は  
しっかりと目に焼き付けました！



豊中  
フラッグ  
・ハカ



～閉会式より～  
吹奏楽部の演奏で  
運動会は締めくく  
られました。